

公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

2016 年度(平成 28 年度) 事業計画書



(平成 28 年 2 月 21 日理事会 議決)

平成 28 年度事業方針と重点テーマ

「すべての人に寄付の実感と満足度を届ける」

設立から 3 年半がたち、地域で取り組む団体、キーパソンとの連携も深まり、事業連携や基金設立相談の内容にも深みが出てきており、おかげさまで地域での存在感、信頼感の高まりを感じております。

現在までに、**3 つの仕組み**（割り勘・貯金箱・円卓会議）、**3 つの機会**（セミナー、Share 会議、ツクル日）といった、みんなつく財団の基本的となる仕組みの設計は完了しており、今後ますます事業の発展およびノウハウの仕組み化が重要になってきました。

また、現在、休眠口座活用の議論など全国的にもコミュニティ財団の役割が高まっており、平成 32 年度 (2020 年度) にむけて、をコミュニティ財団の発展・拡大の動きが全国的に高まると考えています。

平成 28 年度は、今後のコミュニティ財団の発展期に当法人としても取り組みをひろげ、地域のニーズにこたえていく準備期間と位置づけ、情報収集の体制強化、内部マニュアルの整備、仕組み化などの基盤強化を図ります。特に理事会機能の強化、地域調査員及び学生インターンの活用をはじめとした外部の協力者の育成を行うことで体制整備をしていきます。

体制強化を図ることで、寄付を原資に助成を行うコミュニティ財団の原点に立ち返り、情報提供の体制を整え、助成事業の質を高めることで、寄付者の実感と満足度を高められるように取り組んでまいります。

また、昨今の社会状況及び関係者からの問い合わせ状況を考慮し、平成 28 年度は、「子ども（特に幼少期）の育ちの環境」を重点取り組み課題と位置づけ、セミナーの開催や調査研究などを行ってまいります。



【3つの重点テーマ】

○寄付受入体制の強化

平成28年度は、「すべての人に寄付の実感と満足度を届ける」をテーマにかかげ、募金箱の設置、寄付つき商品の開発、みんなつく事業のクラウドファンディング実施など多様な寄付の機会を提供していきます。また、寄付者へのヒアリングなどにより、情報提供の手法や参加の機会の提供など改めて寄付者との関係構築を行い、必要な内部事務の体制を整えることで、特に30代、40代の会社員、経営者を中心にみんなつくマンスリーサポーターへの登録をよびかけていきます。

○寄付を届ける体制の強化（助成事業の質の向上）

地域からの情報提供体制、調査体制を強化し、助成事業の質を高めてまいります。具体的には、学生インターンシップの受け入れ体制を強化し、基礎調査体制を整えるとともに地域のキーパーソン（地域の団体や人との交流の深い人）を「地域調査員」として定期的に情報交換を行う体制づくりをすすめることで情報収集能力を高めます。

また、プログラムオフィサー候補を新規雇用し、人材育成を行うことで内部の体制強化もはかり、寄付者の満足度の高い助成事業を行える体制を整えます。

○社会的投資の体制整備

県内の自治体、民間助成財団等と補助金制度の情報交換を行う体制を整えることで、岡山県内の社会的投資が効果的に行われる体制整備をすすめます。

また、金融機関との情報交換会や勉強会、合同での資金調達相談会を開催することで、公益セクターの金融機関活用のきっかけづくりを行います。

そうした、既存の社会的投資のお金の流れの情報交換体制を整備するとともに、休眠口座の活用やSIBなど社会的投資の機運が高松用に情報異教や啓発を行っていきます。

平成28年度もともに

歩みましょう！



【事業内容】

A.資源循環事業

(1) 助成事業

ア 事業指定助成プログラム

事業を公募し、審査委員会で審査後、その事業に賛同する市民・企業から寄付募集を行い、寄付金を財源として助成を行います。

(今年度のポイント)

- ・研修のワークブックの策定（寄付者意識調査、団体評価）

■上半期、下半期2回の実施

30~50万の事業 × 6プログラム程度

イ 冠基金事業

基金を設置したい市民・企業から寄付金を募集し、寄付者の意向に従いテーマ設定をし、そのテーマでの事業を公募し、助成します。

(今年度のポイント)

- ・益枝基金（奨学金基金）の制度設計、助成
- ・冠基金の広報（寄付者、助成対象とも）強化

■第3回助成の実施

第2四半期理事会において、助成方針を決定し、冬頃事業募集を実施する。特に今年度は子どもをテーマとした基金に対して、積極的に研究するとともに告知を行います。

ウ 社会変革基金

取り組まなければならない課題を可視化し、その課題解決に必要な資金を広く市民に基金を設置し、チャレンジを促すために助成を実施します。

(今年度のポイント)

- ・常時寄付募集を行う体制整備（新規基金の設置）

■子ども基金新設の検討

子どもの育ちに関するテーマへの関心は高く、新設基金の設置検討を行い、寄付募集を開始します。

(2) 円卓会議（岡山県事業の活用）

様々な分野の人が集まり、一つのテーマについて考える会議の実施、課題について話すことで知恵や情報をだしあい、解決のための役割分担や啓発を行います。平成28年度は、「子どもの育つ環境」に関するテーマでの開催を行い、それに加えて、行政や市民団体等から依頼があったテーマについて開催またはコーディネートを実施します。

B 寄付文化創造事業

チャリティーイベントや寄付文化について考える交流会、またイベントなどでの寄付付商品の開発などを行い、寄付を体験する機会を提供するとともに助成事業等の原資になる寄付集めを行います。

■ 募金箱の設置（50か所以上）と募金箱づくり

岡山県内各地に募金箱を設置し、インターネットで公開するとともに、手作り募金箱キットを配布し、気軽に寄付できる環境づくりをします。

■ 毎月29日「ツクル日」企画の開催

毎月29日に、寄付イベントやチャリティー企画を実施します。特に3月29日は、「みんつくの日」として企業や地域団体と連携し、寄付キャンペーンを実施します。

■ 寄付月間企画の開催

寄付月間推進委員会と連携し、12月に寄付月間に取り組む。特に平成28年度は特に高校生や大学生との連携企画を実施します。

■ 交流会・報告会の開催（年2回以上）

寄付者や助成団体などの交流会（4周年記念交流会など）や報告会を開催し、みんつく財団に関係する人の交流の輪を広げていきます。

■ 企業の周年基金募集の強化

企業の周年お祝いにあわせて、冠基金の提案や寄付付商品のご案内など企業の寄付募集を強化していきます。（市民ファンド助成を活用）

■ その他寄付プログラムの開発

香典返し寄付プログラムや誕生日寄付、クリスマス寄付など寄付プログラムを開発し、岡山県内の関係する団体等へ案内を行います。

C 情報発信・人材育成事業

公益活動支援に関する内容について、講師・研修依頼およびコーディネートを受け付け、講演・研修・ノウハウ移転を実施します。また当法人主催で資金調達や情報発信など市民公益活動に必要な研修会を実施します。

■ 毎月9日「+1セミナー」の開催

毎月9日に、寄付や市民公益活動に関するセミナーを開催します。通常は無料開催で、外部講師招へい時やファンドレイジングに関する専門講座は有料で開催します。

■ 講師派遣（年間5回以上）

依頼のあった地域、団体に講師派遣を実施します。

■ ノウハウ移転事業（3団体以上）

自治体や公益団体に対して、資金調達や資源（補助金等）活用についてノウハウ移転および支援を実施します。平成28年度は、瀬戸内市の協働事業、岡山県のネットワーク構築事業および倉敷市のSBファイナンス支援の体制整備などを実施します。

■ ソーシャルライター講座の開催（市民ファンド助成を活用）

ソーシャルライター講座を開催します。初級編は無料で実施し（団体向け、個人向け）、基礎編は有料セミナーとして開催します。また研修後、ライターの情報発信の機会の提供を行っていきます。

D 調査研究事業

地域資源に関することや資金調達に関すること、地域課題に関することの諸調査を行い、その成果を発信するとともに、効果的な資源循環の仕組み構築に役立てます。また、毎月Share会議（市民団体による公開課題提案）を実施し、地域の課題のタネを収集し、調査研究や資源循環事業へと発展させていきます。

■ 地域調査員の発掘・育成

情報収集・発信体制の強化のために地域調査員制度をつくり、3 県民局エリアで1名以上合計5名以上の登録を行います。

■ 情報連携の体制強化

自治体や公益団体、金融機関と情報交換会を開催し、次年度以降も継続

実施できる体制の整備を行います。

- 社会的投資市場に関する研究（情報交換会の開催 1回以上）
社会的投資についての情報収集や研究を行い、「+1セミナー」などの機会や県内自治体や助成団体等に情報提供を行います。
- 子どもの育つ環境調査)
子ども関係団体や施策の調査を行うとともに、益枝基金の設計や社会変革基金の設置の基礎的な調査、情報収集体制を構築します。
- 毎月19日「Share 会議」の開催（3県民局エリアで開催）
平成28年度は、各地の支援機関や地域調査員と連携し、開催を実施するとともに、岡山県内、三県民局すべてのエリアで一度以上は開催します。

【平成28年度体制強化のイメージ図】

